

## 第12回

こども急性疾患学寄附講座(神戸市)公開講座

# こどもの救急診療と研究

日時 2015年9月5日(土) 10:30~12:00

場所 神戸こども初期急病センター  
なぎさホール

託児所あり

8月24日(月)

お申込み padlet@med.kobe-u.ac.jp  
までご連絡ください。

- あいさつ
- 公開講座

### 1 こども初期急病センターの臨床研究システムについて

講師 神戸大学大学院医学研究科 内科系講座 小児科学分野 こども急性疾患学部門  
特命教授 森岡 一朗

### 2 よくわかる突発性発疹症、その症状から対応まで ~発熱受診患者の解析結果を交えて~

講師 神戸大学医学部附属病院 小児科 特定助教 長坂 美和子

### 3 緊急を要するアレルギー、注意すべき症状と経過 ~急病センター受診患者解析によってみえてきたもの~

講師 神戸大学医学部附属病院 小児科 助教 忍頂寺 毅史

参加費  
無料



神戸市中央区臨浜海岸通1丁目4番1  
(HAT神戸内)

阪神電車「春日野道」駅から南へ  
徒歩約8分

JR「灘」駅南口より南へ徒歩18分

※満席の際には入場できない場合もございますので、  
ご了承ください

お問い合わせ先

神戸大学大学院医学研究科 内科系講座 小児科学分野 こども急性疾患学部門  
〒650-0017 神戸市中央区楠町7-5-1 TEL. (078) 382-6090

主催/神戸大学大学院医学研究科 内科系講座 小児科学分野 こども急性疾患学部門(寄附講座)

後援/神戸市・神戸市医師会・神戸市小児科医会

# こども初期急病センターの臨床研究システムについて

神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども急性疾患学部門  
特命教授 森岡 一朗

神戸こども初期急病センターには、神戸大学こども急性疾患研究所（神戸大学大学院医学研究科小児科学分野こども急性疾患学部門）が併設されています。本研究所（部門）のミッションのひとつに、先進的な小児急性疾患の研究成果を全国に発信することによって全国の小児医療の推進に寄与するということがあります。そのため、年間約3万人の受診がある神戸こども初期急病センターの診療データベースは臨床研究の大きな力になります。

その臨床研究を行うためには、保護者の同意、倫理委員会の承認を得ることなど倫理的観点から適正に行われることが必要不可欠です。神戸こども初期急病センターでの臨床研究のシステムはどのようになっているかを具体的にお話しいたします。

## よくわかる突発性発疹症、その症状から対応まで ～発熱受診患者の解析結果を交えて～

神戸大学医学部附属病院 小児科  
特定助教 長坂 美和子

突発性発疹症は乳幼児に発症するウイルス感染症です。典型的な経過としては3-5日間ほど高熱が持続し、解熱とともに全身に発疹が出現し治癒します。原因ウイルスはヒトヘルペスウイルス6B（HHV-6B）ならびにヒトヘルペスウイルス7が知られています。3歳までにほぼすべての児が感染します。突発性発疹症は自然治癒することがほとんどですが、まれに脳症などの重篤な合併症を発症し後遺症を残すことがあります。また、神戸大学で最近、HHV-6BがCD134という分子を介して細胞に感染することを発見しました。現在、このCD134分子やサイトカインという物質に注目しHHV-6Bがどのように感染し体どのように反応するかについて研究を進め、突発性発疹症の病態の解明に取り組んでいます。

## 緊急を要するアレルギー、注意すべき症状と経過 ～急病センター受診患者解析によってみえてきたもの～

神戸大学医学部附属病院 小児科  
助教 忍頂寺毅史

アレルギーは今や国民病ともいわれるほど多くの人がかかっている身近な病気です。アレルギーの中でもアナフィラキシーと呼ばれる病態があり、重篤だと死に至るとても怖いものです。当急病センターでは夜間休日にアナフィラキシーを処置・治療することも少なくありません。今回我々はアナフィラキシーの患者さんのデータを解析し、これまでに分かっていた新しいことを発見することができたため発表させていただきます。この発見は我々医療者が今後の日々の診療の役に立てていくだけでなく、皆さまにも知っていただき、予防や早期対応のきっかけとしていただくことができるのではないかと考えています。